

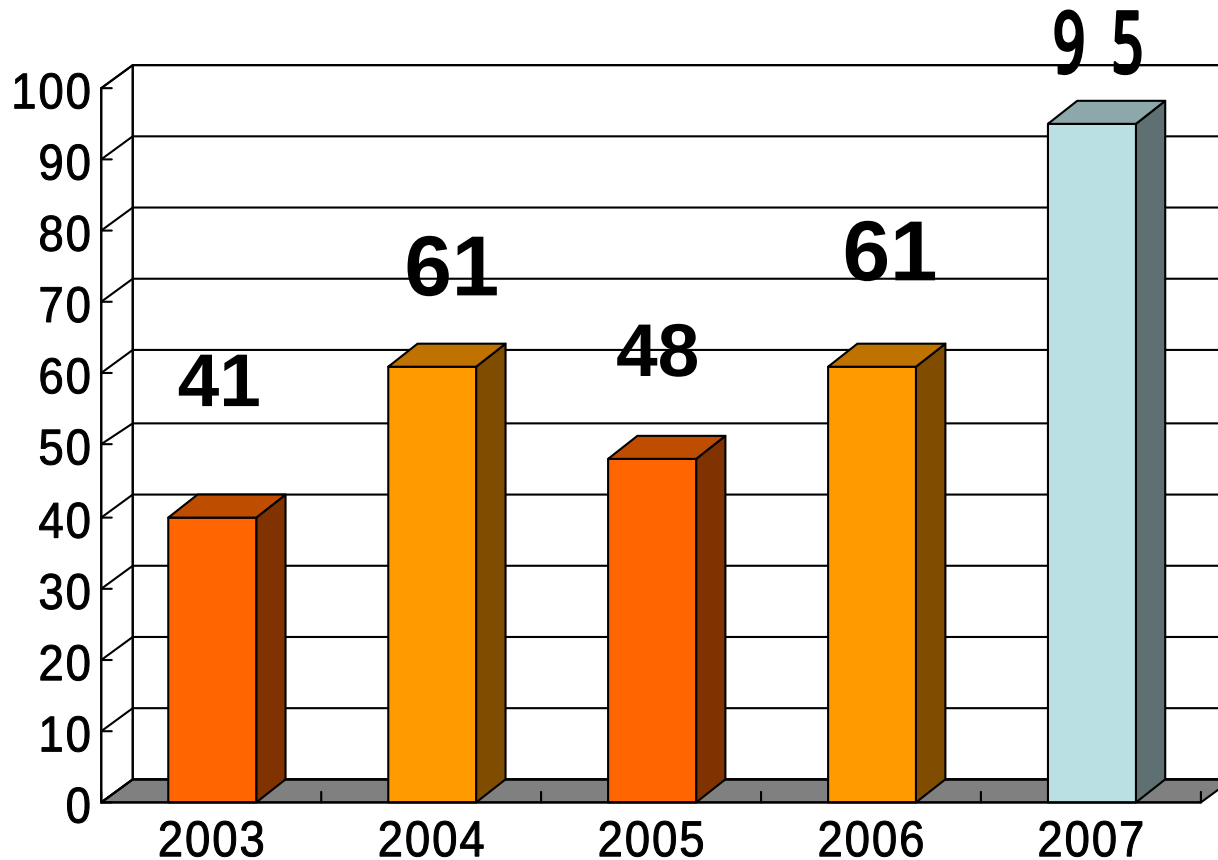
頭頸部腫瘍治療状況 — 喉頭がんを中心に —

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

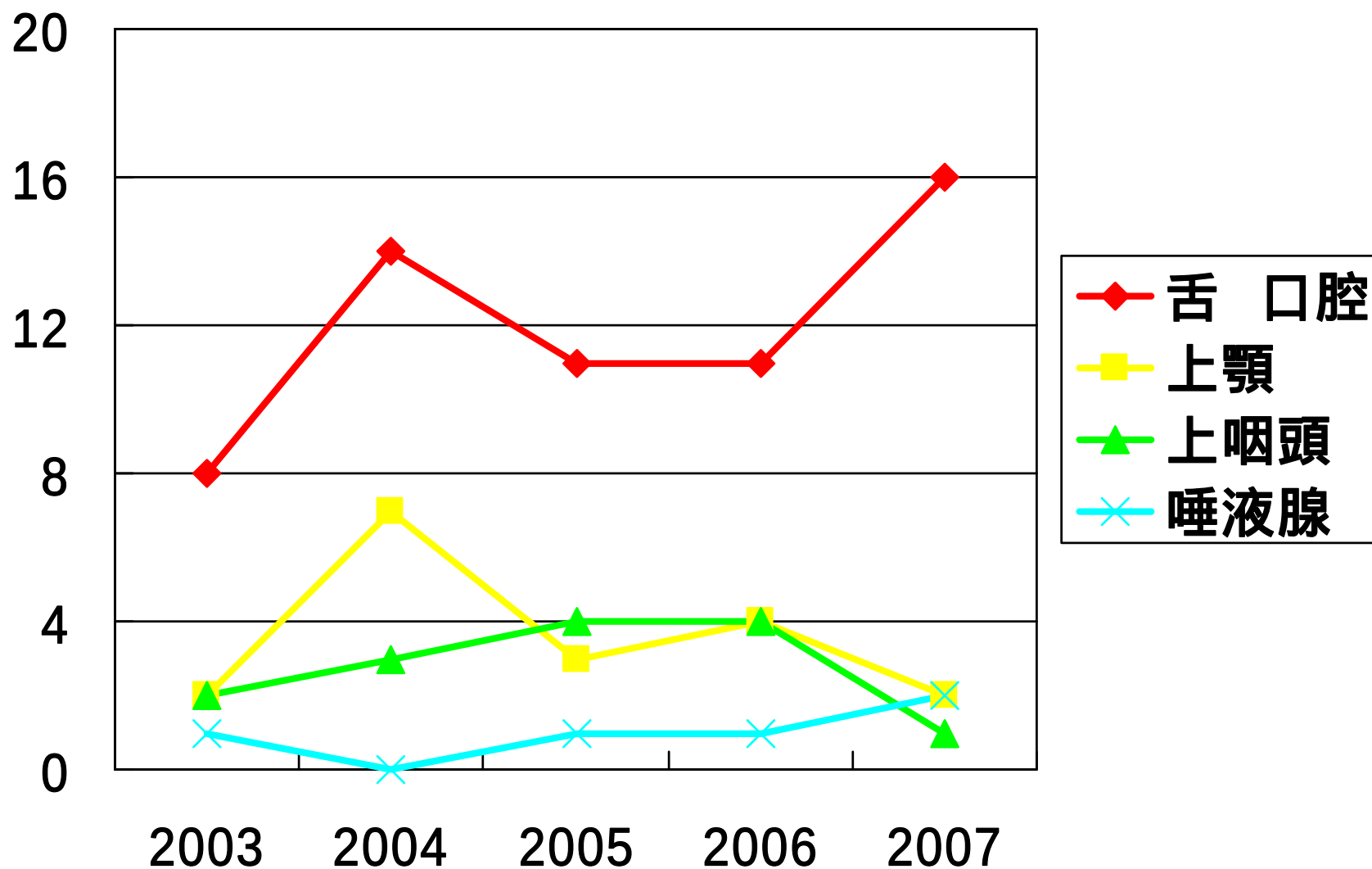
井口 郁雄

頭頸部癌症例の年次推移

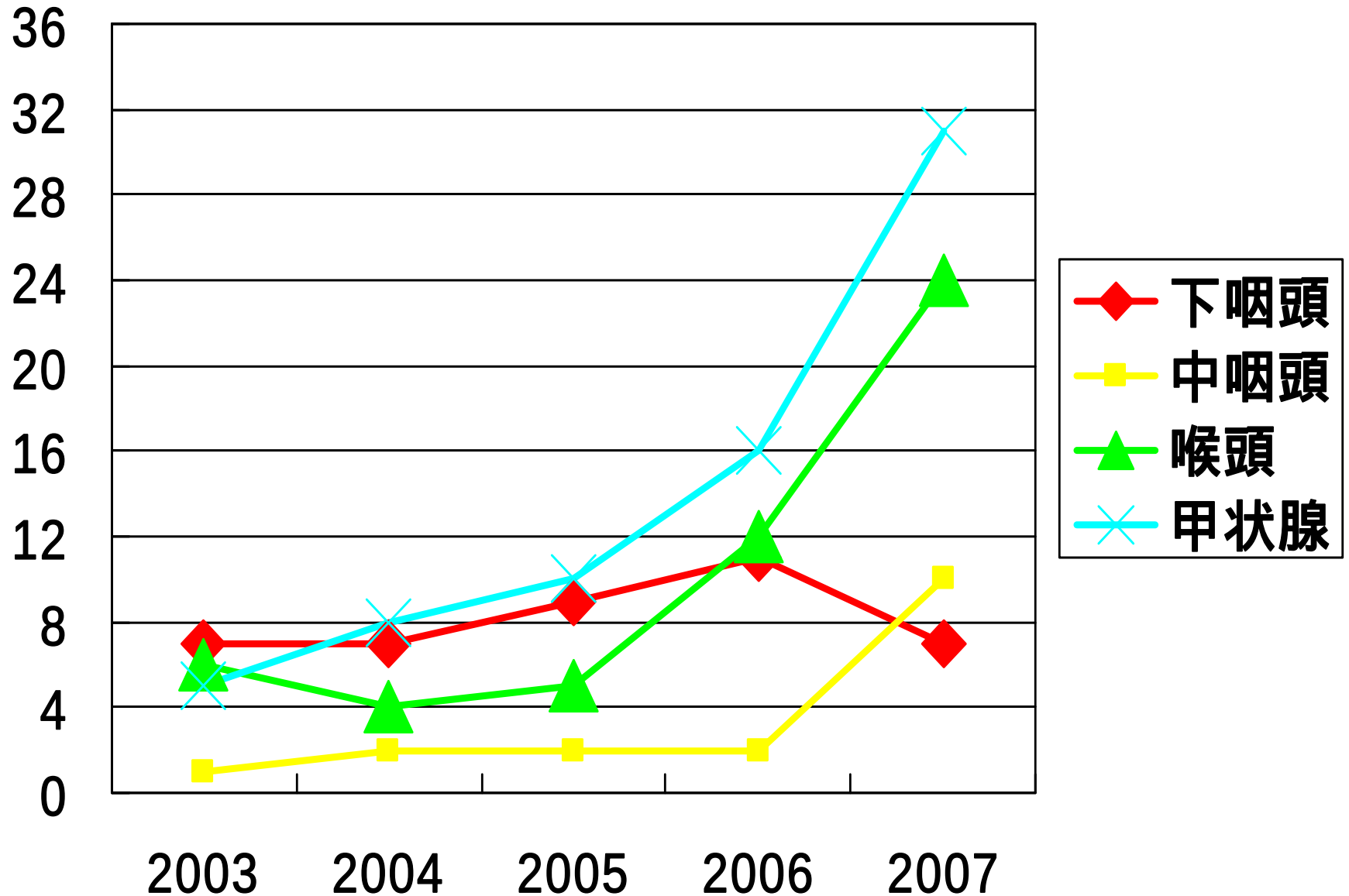
全症例の年次推移



各症例の年次推移

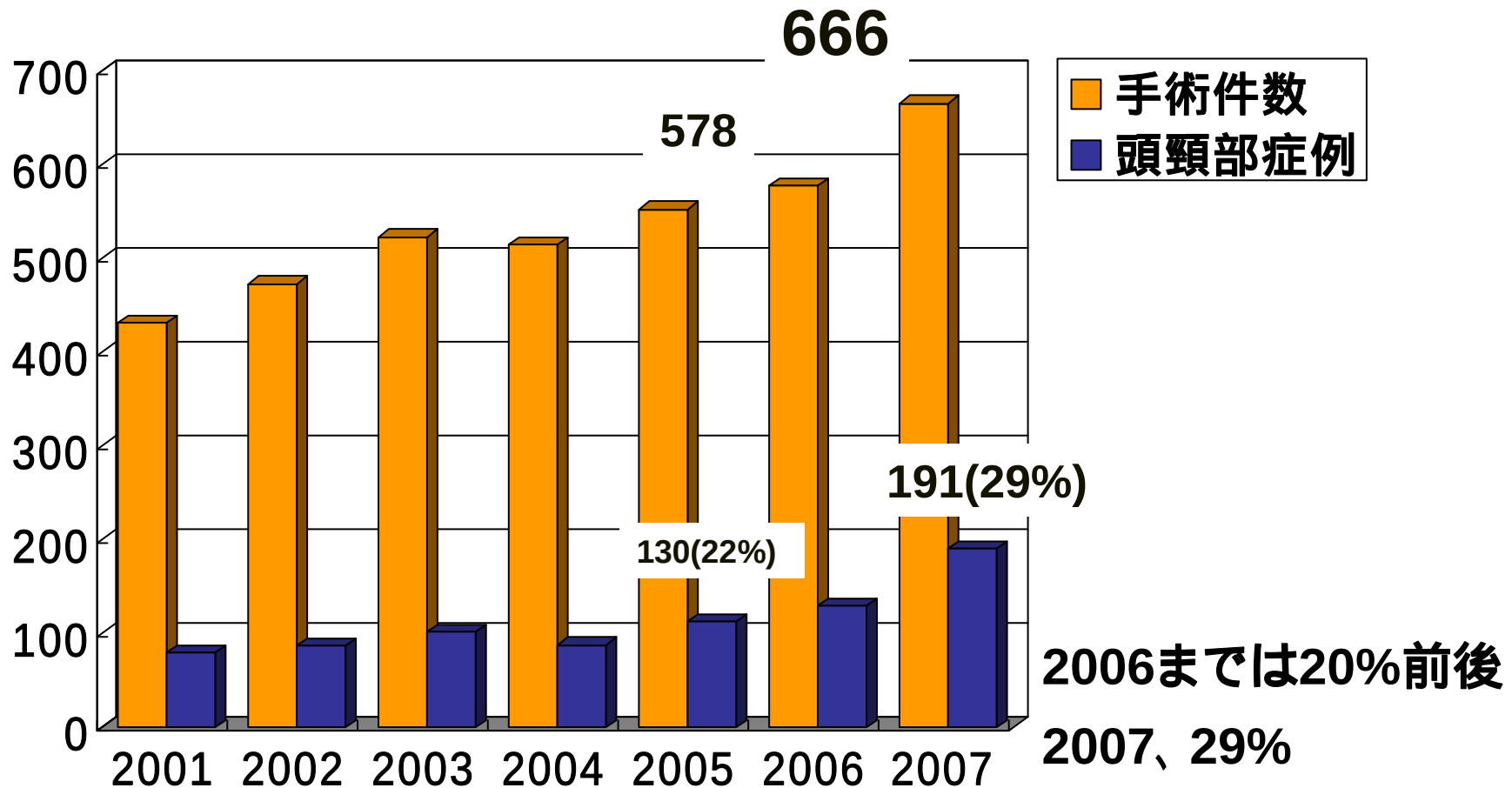


各症例の年次推移

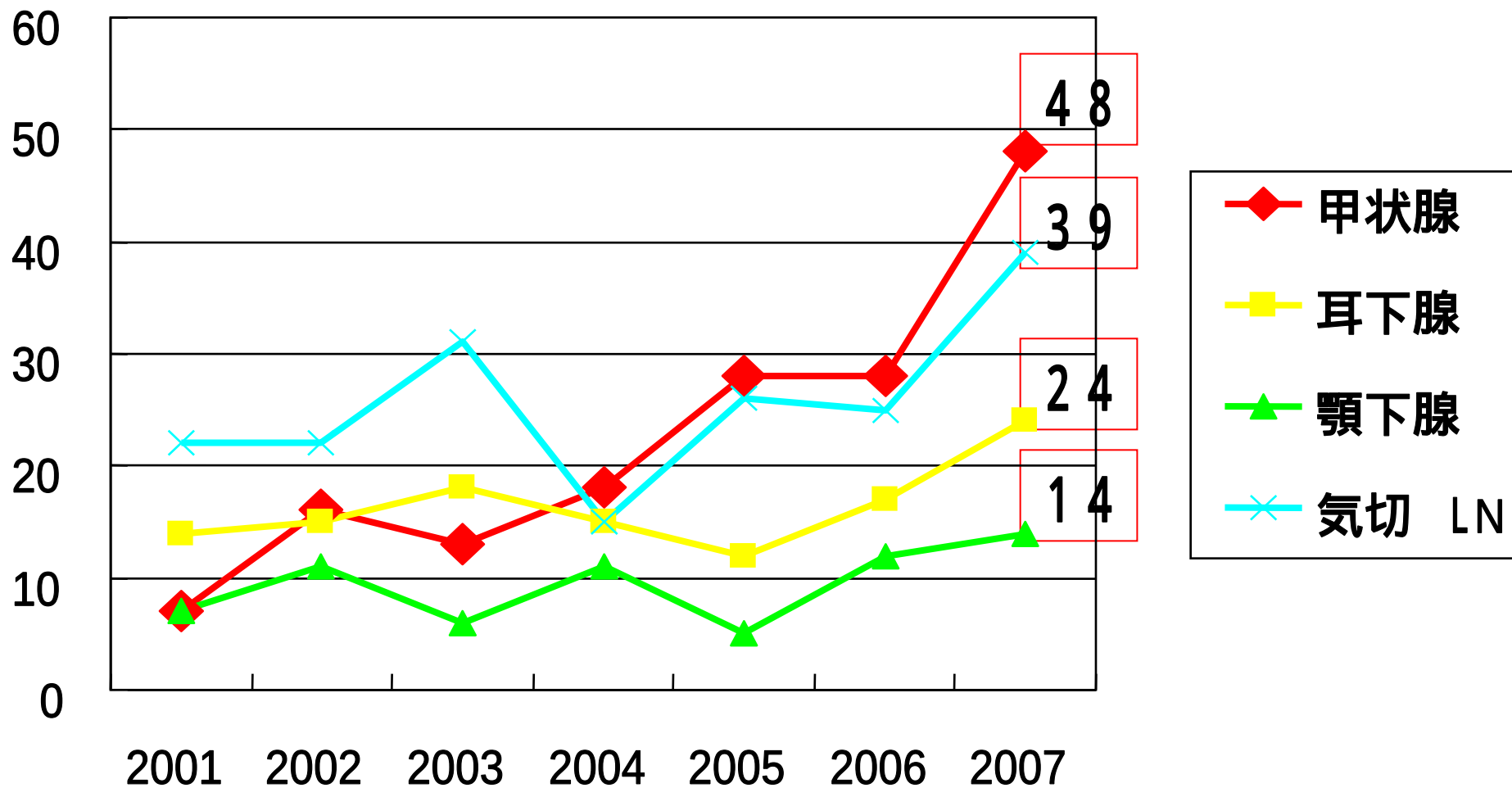


頭頸部腫瘍手術例年次比較

1 全手術症例に対する頭頸部腫瘍の占める割合



2 各頭頸部手術症例の年次推移



耳下腺腫瘍

H17.1 ~ H19.12 (3 年間) 当院で手術加療施行した 5 2 例

悪性腫瘍 3 例

Salivary duct carcinoma 2 例

Squamous cell carcinoma 1 例)

良性腫瘍 4 9 例

Pleomorphic adenoma 2 1 例

Warthin's tumor 1 7 例

その他 1 1 例 (Basal cell adenoma
malignant lymphoma 等)

術後顔面神経麻痺について

術式 耳下腺浅葉摘出術 43例

耳下腺深葉摘出術 6例

耳下腺全摘・顔面神経合併切除術 3例

顔面神経麻痺 全9例(17.3%)

完全麻痺 3例(5.8%)

全て悪性腫瘍例で顔面神経切除例

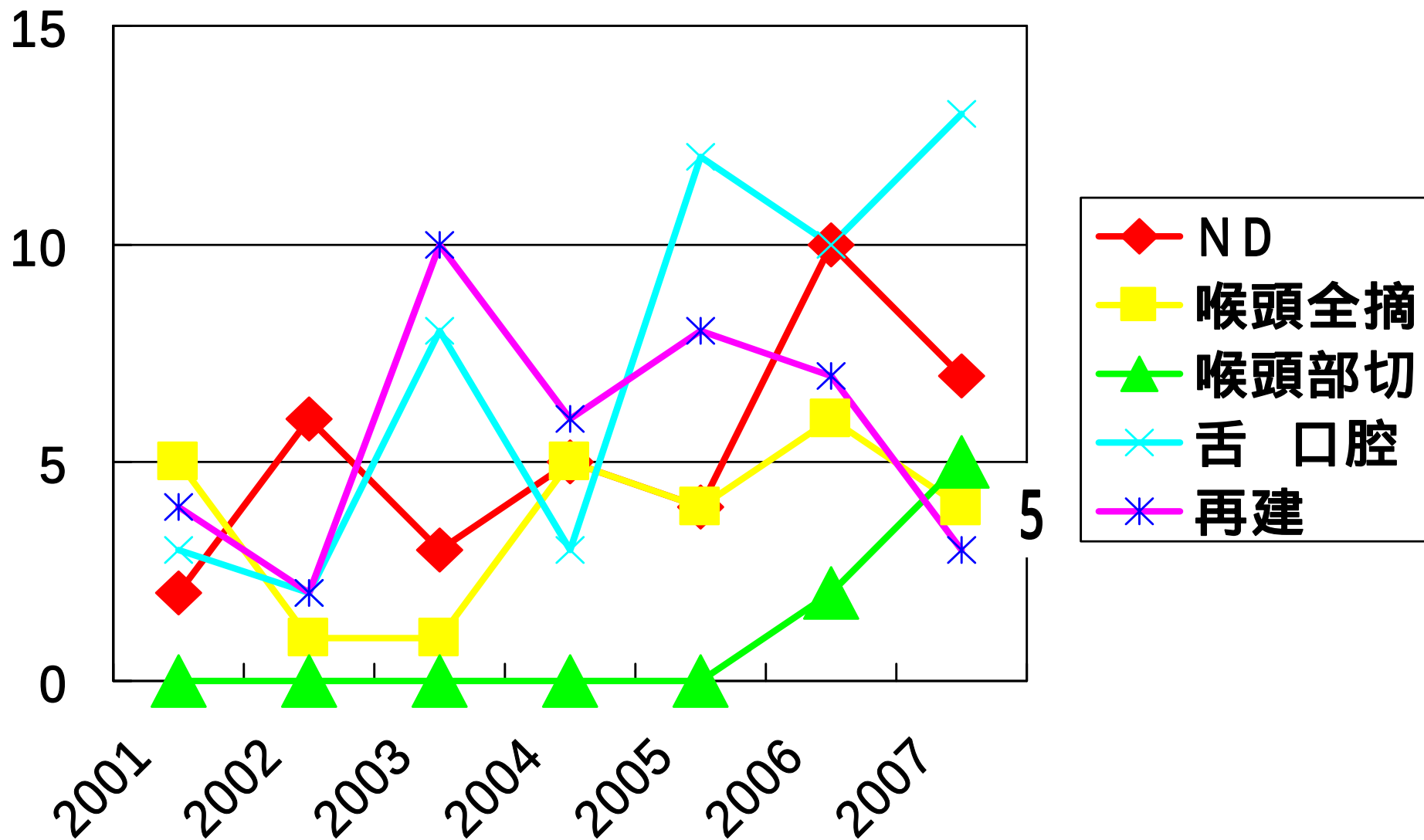
不全麻痺 6例(11.5%)

浅葉摘出 4例

深葉摘出 2例

→ 全て完全回復

2 各頭頸部手術症例の年次推移



喉頭部分切除症例

2006より開始し増加傾向

喉頭がんの治療基本方針

*** T 1 , T 2 症例は、根治照射**

*** T 3 , T 4 症例は、喉頭全摘術**

*** T 1 , T 2 再発例は、喉頭全摘術**

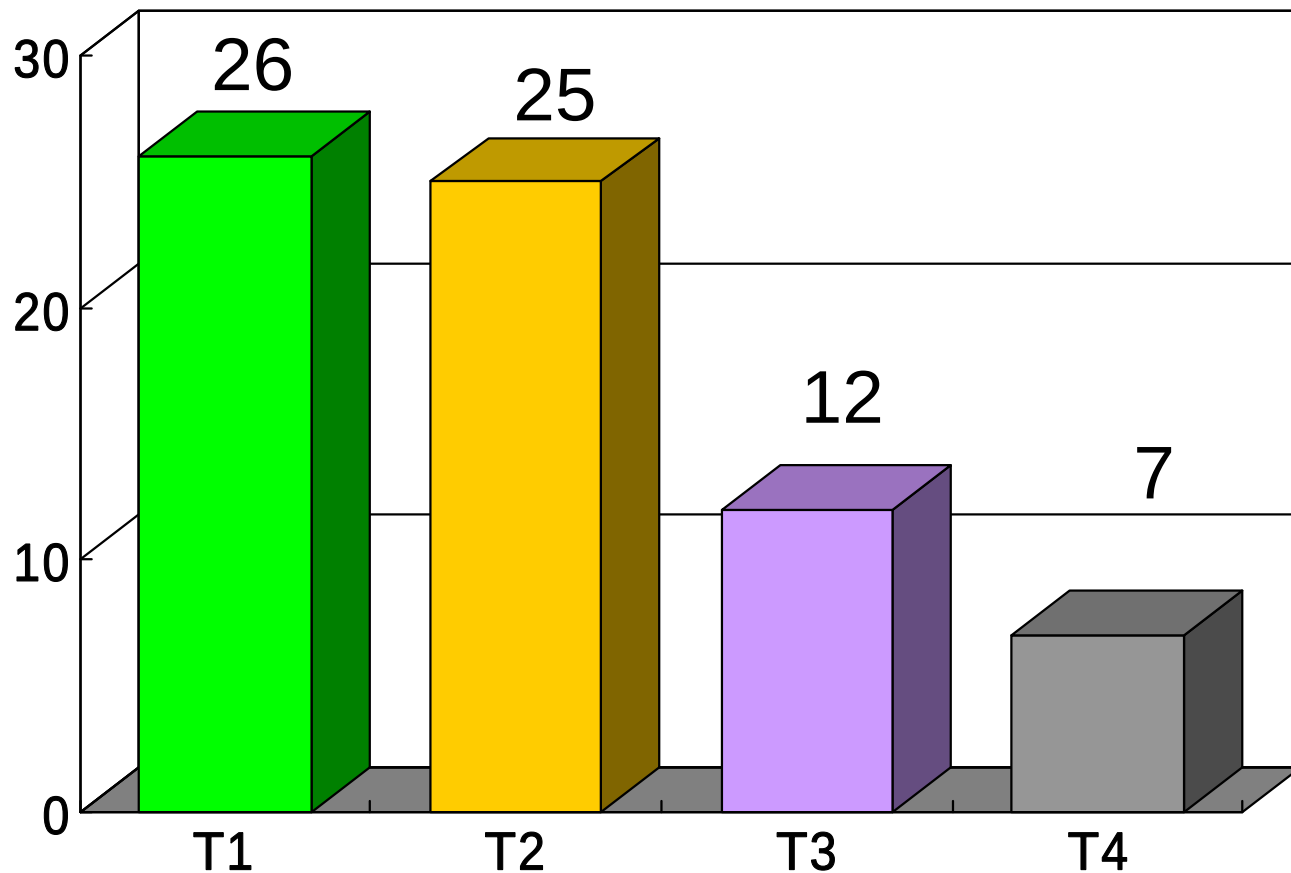
*** T 2 症例で R T 後、癌残存例は
喉頭全摘術**

2 0 0 4 までの方針

2 0 0 5 より喉頭部分切除術を加えている

喉頭癌の治療成績

6年当院で加療した喉頭癌70例



T1 T2
72%

61-80歳

68%



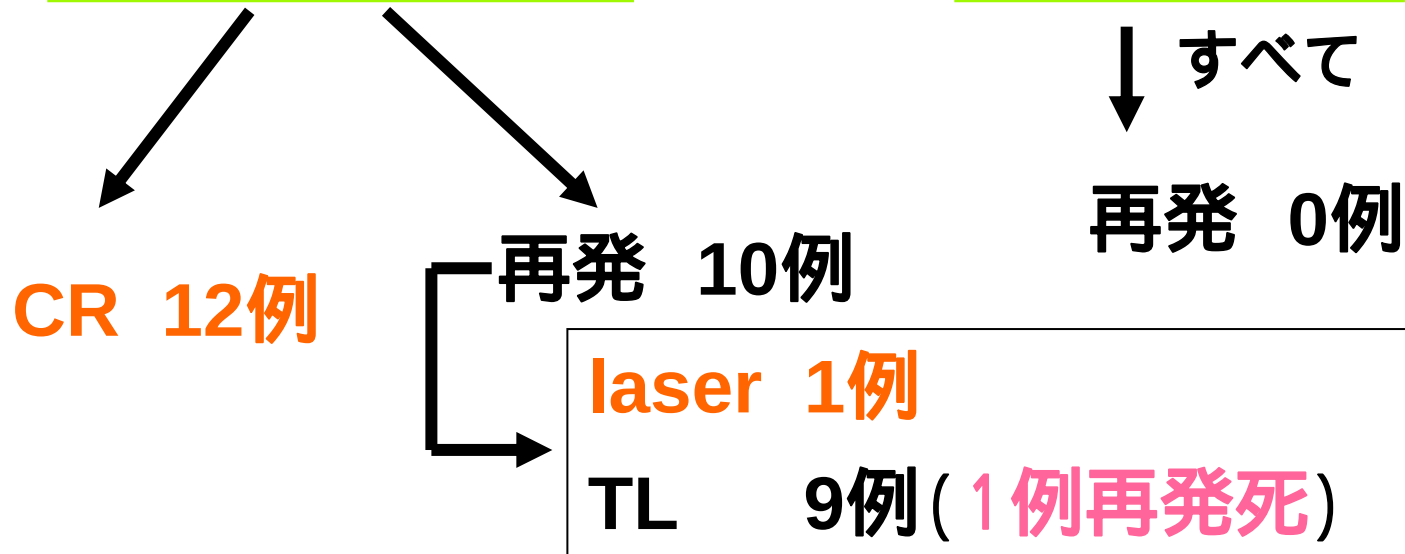
T別検討

	R T	T L	再発	salvage	局所制御率	喉頭温存率
T 1	26	0	3	TL 1 Laser 1 頸 骨転移 1	96.1%	92%
T 3	0	12	2	頸部LN 1 局所 1	83.3%	—
T 4	0	7	2	頸部LN 2	71.4%	—

喉頭癌T2 25例

根治照射 22例

喉頭全摘(TL) 3例



喉頭温存率 59.1%(RT CR12例 s-laser 1例)

局所制御率 96.1% (1例再発例)

喉頭がん治療成績小括

- ◆喉頭がんの5年生存率は、
声門上がんで81.8%、声門がんで90.3%、
声門下がんで75%、全体で87.9%であった。
- ◆T1症例のRTによるがん制御率は、96.1%と
良好な成績を示した。
- ◆T2症例の局所制御率は96.1%と良好であったが、
喉頭温存率は59.1%であった。

1. 頭頸部腫瘍の手術件数は6年前に比べ1.5倍、
頭頸部癌の治療症例数は2.3倍と著名に増加していた。
2. 特に甲状腺癌、喉頭癌の症例数の増加が顕著であった。
3. 喉頭癌の治療成績を検討した。
治療成績は、国内の有名他施設の成績の比べて、
遜色のない成績を示した。
音声機能を温存可能な喉頭部分切除術は、
症例を選び、今後も実施したいと考える。